令和4年9月1日

令和４年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，令和４年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和4年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，理科，児童質問紙）
中学校　第３学年（国語，数学，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　６５　人
②　算数　　６５　人
③　理科　　６５　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

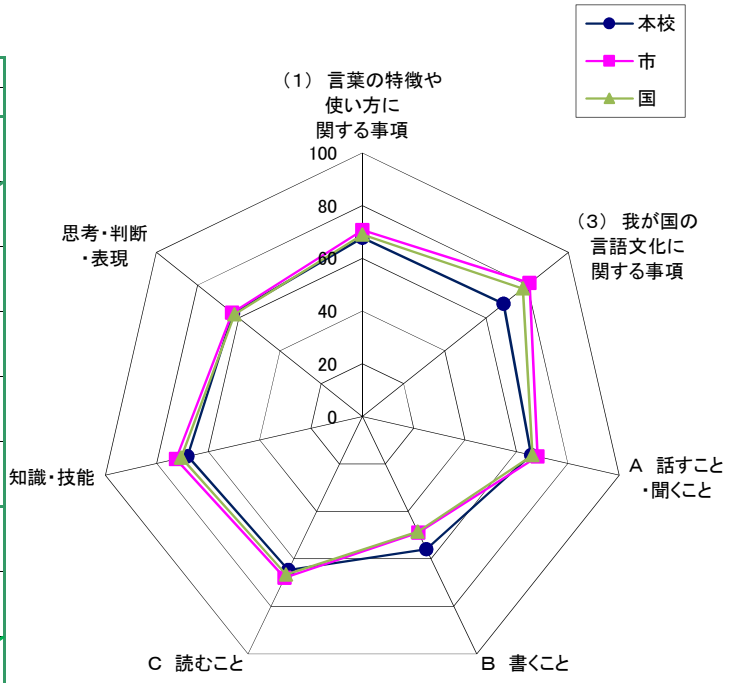
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	67.8	70.7	69.0
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	68.6	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	65.7	68.2	66.2
	B 書くこと	55.9	48.9	48.5
	C 読むこと	64.7	67.9	66.6
観点	知識・技能	68.0	72.5	70.5
	思考・判断・表現	62.7	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

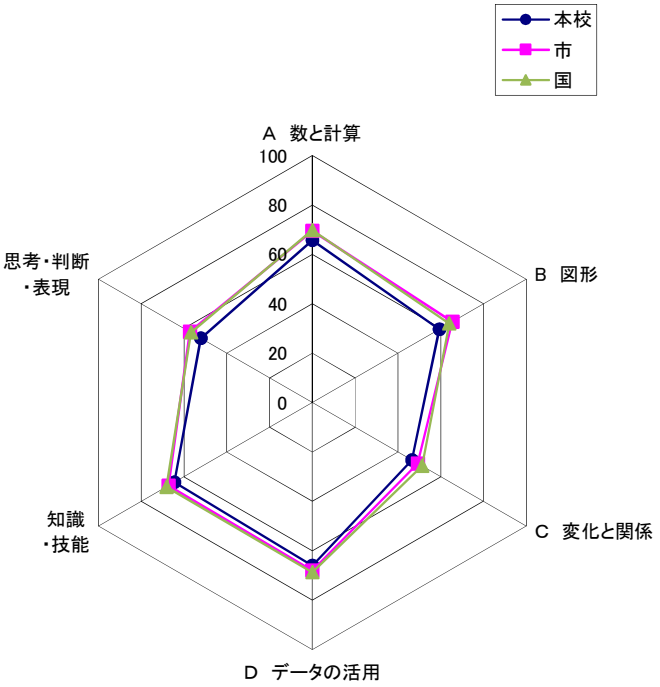
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，全国の平均正答率より低かった。 ○ 話し合いにおける発言の理由として適切なものを選択する問題では，栃木県や全国の平均正答率を上回っており発言の意図や効果を適切に理解することができている。 ● 文章の中で使われている言葉を漢字に書き直す問題では，無回答と不正解を合わせると30%近かった。	・言葉の意味を正しく理解したり、理解した言葉を文中で正しく使ったりすることができるように、漢字練習を指導していく。また、計画的に既習漢字の復習を行うことで定着を図る。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，全国の平均正答率より低かった。 ● 手紙を清書したとき、書写の分野においてどのように書き方を整えたかを選択する問題では，栃木県や全国の正答率より10%低く，無回答も約10%であった。	・書写の学習の中で、修正前の文字や文章から問題点を見つける活動において一人ひとりがしっかりと意見をもったり確かめ合ったりする時間を確保し、何をどのように改善していくとよいかという方向性を定められるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，全国の平均正答率よりやや低かった。 ○ 無回答の割合が栃木県や全国よりも低かった。 ●「公園をきれいにしよう」というテーマについて，アイデアとそれに付随する問題点の解決方法を書く問題では，解決方法を書くことや文章中から言葉や文を引用することなどの4つの条件に満たない解答が50%以上であった。	・質問されたことに対して正しく答えることを意識することを徹底する。 ・各教科の学習において振り返りを書く際、「何行以上で書く」「この言葉を使って書く」「このことについて自分の考えを書く」などの条件を示し，題意を捉えて記述することに慣れさせていく。 ・作文を宿題に課し，様々なテーマについて自分の意見をもったりその理由を2～3点考えたりすることができるようにしていく。
B 書くこと	平均正答率は，全国の平均正答率より高かった。 ○ 友達が書いた文章のよさを伝える文章を書く問題では，栃木県や全国の正答率を5%以上上回った。 ● 段落ごとに，文章がどのような役割をもつかを問う問題では，栃木県や全国の正答率を下回った。	・文章のもつ役割について，「自分の考え」と「理由」，「事実」と「感想」，「引用」などの言葉の意味を具体的な文章例と結び付けながら理解することができるようにしていく。 ・説明文や物語文を読む際に，その段落が文章全体の中でどのような役割を果たしているかを抽象的に捉えることができるように文章構成を把握する活動を行う。
C 読むこと	平均正答率は，全国の平均正答率よりやや低かった。 ○ 登場人物の気持ちを捉える問題では，栃木県や全国の正答率を5%近く上回った。 ● 複数の選択肢の中から「二つ」選ぶ問題で，1つしか選んでおらず不正解になっている解答が20%以上あった。 ● 物語の主題や自分の考えを書く問題では，条件を満たしていない解答と無回答を合わせて30%以上であった。	・問題文をよく読み，求められていることに印をつけるなどして正しく答えることができる意識を高めていく。 ・説明文や物語文を読む際に，主題や著者が読み手に伝えいたいことことを捉えることができるように，文章の展開や山場での登場人物の気持ちの変化に気を付けて読解の活動を行う。

宇都宮市立西原小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	65.7	69.5	69.8
	B　図形	59.3	65.4	64.0
	C　測定			
	C　変化と関係	46.6	49.3	51.3
	D　データの活用	66.0	68.0	68.7
観点	知識・技能	64.5	67.3	68.2
	思考・判断・表現	52.1	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

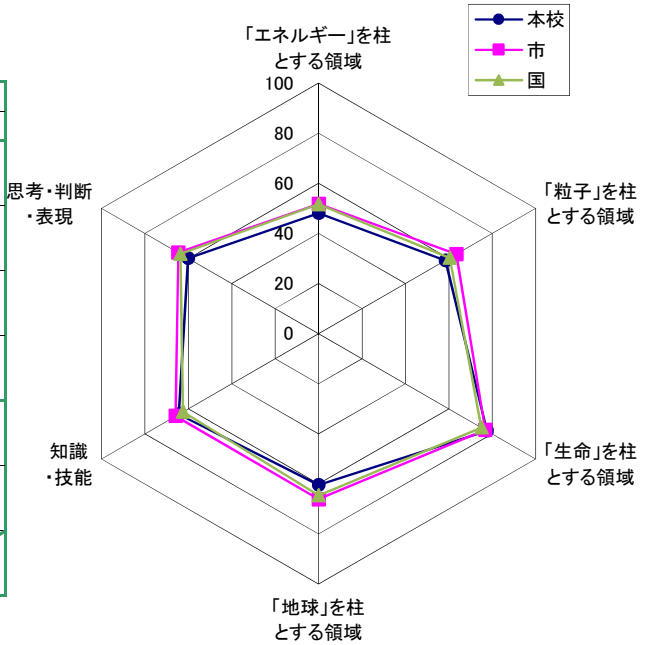
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は全国，市の平均より低かった。 ○[示された場面を解釈し，除法で求めることができる理由を記述する問題」の正答率が全国より4.4ポイント高かった。 ●被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題のの正答率が，全国より8.1ポイント低かった。	・問題場面から情報を収集した上で条件に合うものを判断して解釈し，思考を深める学習を行うようにする。また，解決した後に使った式を問題場面に戻って振り返る場を設定することも児童の状況に応じて取り入れながら授業を行っていく。 ・基礎となる計算技能を高めるよう，チェックテストを行い，つまずきに応じた補充指導を行っていく。
B　図形	平均正答率は全国，市の平均より低かった。 ○長方形のプログラムについて，向かい合う辺の長さを書く問題で正答率が高かった。 ●「示されたプログラムについて，正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題」の正答率が，全国より7．6ポイント低かった。	・図形の構成要素の意味や性質を基にして問題場面をとらえ，回転の大きさとしての角の大きさに着目して考察しながら問題解決をする学習を行うようにする。
C　変化と関係	平均正答率は全国，市の平均より低かった。 ○百分率で表された割合を分数で表す問題で正答率が高かった。 ●「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて，未知の数量の求め方と答えを記述する問題」の正答率が，全国より10．7ポイント低かった。	・比例などの伴って変わる二つの数量の関係についての理解が深められるよう，その思考過程や結果を表現したり，説明したりする学習を授業で行うようにする。 ・図や表を利用して視覚的に場面を捉えさせる等，問題場面と式のつながりを明確に理解できるようにする。
D　データの活用	平均正答率は全国，市の平均よりやや低かった。 ○目的に応じて円グラフを選択し，必要な情報を読み取る問題で正答率が高かった。 ●「分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題」の正答率が，全国より3．1ポイント低かった。	・授業の中で，グラフから資料の特徴や傾向を読み取る学習を行う際に，グラフから分かることを伝え合う時間を十分にとる。また，グラフのどの部分に着目して読み取ったのかについても説明することが出来るよう指導していく。

宇都宮市立西原小学校第６学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	48.0	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	58.4	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	77.6	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	60.4	66.1	64.6
観点	知識・技能	64.4	65.9	62.5
	思考・判断・表現	60.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，全国の平均正答率より低かった。 ○光の性質を基に，鏡を操作して，指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ問題では，県や全国の平均を上回っている。日光は直進することを理解できていることがわかる。 ●「鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に，継続して同じ条件で実験を行うために，実験の方法を見直し，新たに追加した手順を書く問題」「問題に対するまとめから，その根拠を実験の結果を基にして書く問題」では，正答率は県や全国の平均より低く，無解答率も10%程度であった。実験の検討をして改善したり，問題の視点で分析したりして，自分の考えをもって記述することに課題が見られた。	・問題（何を知るための実験），実験（どのような方法で実験），考察（結果から何が分かる）が明確になるような板書やノート指導を行い，児童が上記の3つをセットにして思考がつながるような学習を進めらえるようにする。また「結果から分かること」については，自分の言葉で話したりまとめたりする活動を設ける。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，全国の平均正答率より低かった。 ○水溶液の凍り方について，実験の結果を基にそれぞれの水溶液が「凍る温度を見出し，問題に対するまとめを選ぶ問題の平均正答率は，全国や県の平均を上回っている。問題に対するまとめを検討，改善した考えを選択することができることがわかる。 ●凍った水溶液の結果から，新たに試してみたいことを基に，見出された問題を書く問題では，県や国の平均正答率を大きく下回った。自然の事物・現象から得た情報から，新たな問題を見つけ，記述することに課題が見られた。無解答率も11%を越え，文意を正しく理解できていない児童も多いと思われる。	・自然の事物・現象に関する実験結果の考察後，学びが自分たちの生活場面においてどのように活用されるのか，新たな問題がないか考える場面を設け，実験と実験がつながりをもって行えるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，全国の平均正答率より高かった。 ○昆虫の体のつくりの特徴を基に，ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ問題では，県や国の平均正答率を10ポイント以上，上回っている。昆虫の体のつくりを正しく理解していることがわかる。 ●資料を基に，カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのか選ぶ問題では，県や国の平均正答率を下回った。提示された情報を，複数の視点で分析して解釈し，自分の考えをもつことに課題が見られた。	・学習で得た知識や調べた事物と他の事物の特徴を比較して共通点や関連性はあるのかなどを書いたり，話し合ったりする活動を行っていく。 ・実験結果の考察や授業の振り返りで，自分の考えをノートにまとめる活動を今後も十分に時間をかけて行っていく。また，お互いの考えを発表した際には，比較・検討する活動も行っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，全国の平均正答率より低かった。 ○鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は，何が変化したものかを書く問題では，全国や県の平均を上回っている。水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解していることがわかる。 ●「冬の晴れた夜は，気温が下がる」ことを「冬の数日間の天気と気温の変化」の資料のどの部分からわかるのか選ぶ問題では，県や全国の平均正答率を大きく下回った。観察などで得た結果を，結果からいえることの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもつことに課題が見られた。	・実験を行う際には，児童の予想を確かめるためには，どのように実験したらよいか，実験の結果から何が分かるのかについて十分に話し合わせ，見通しを持たせながら実験を行ったり，結果を考察したりしていく。

宇都宮市立西原小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは,楽しいと思いますか」の質問について,肯定的回答の割合が国や県と比べて高かった。授業や学級活動,児童会活動などに積極的に取り組み,毎時間の授業の振り返りや児童の良さを相互に認め合ったり,児童の内面の頑張りや成長を教師が認めたり励ましたりしている成果だと考えられる。今後も,自己肯定感や自己有用感を育み,周りと協調しながら努力していくことができるように支援していく。

○「５年生までに受けた授業で,PC・タブレットなどのICT機器を,どの程度使用しましたか」「学校で,授業中に自分で調べる場面で,PC・タブレット・ICT機器をどの程度使っていますか」の質問について,肯定的回答が国や県と比べて高かった。家庭では宿題や自主学習に,学校では,授業中にほぼ毎日使用している。学校で友達と意見を交換する場面でも自分の考えをまとめたり発表する場面でも,タブレットを上手く活用し,学習の中で役立てている。今後も継続して,タブレットを学習に活かしていけるように支援していく。

●「普段,１日当たりどれくらいの時間,テレビゲームをしますか」「普段,１日当たりどれくらいの時間,携帯電話やスマートフォンやSNSや動画視聴などをしますか」の質問について,4時間以上と回答した児童が国や県と比べて高かった。学級指導で全体に指導すると共に個人的にも指導をし,規則正しい生活や時間の使い方について支援していく。同時に家庭との連携を図っていきたい。

○「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問について肯定的回答の割合は,国や県と比べて高かった。学習の流れをよく理解し,国語への学習意欲が高いと伺える。普段の授業で行っている問題解決的な学習を今後も継続して行っていく。

●「算数の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」「算数の授業で問題を解くとき,もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の質問について,肯定的回答の割合が国や県よりも低かった。教科制ということで,質問したり復習したりという時間が取れていないことも伺える。児童が宿題や自主学習などで進んで授業の予習・復習に取り組めるように,内容を検討して課題に出したり,家庭学習の時間が確保できるように呼び掛けをしたりして支援していく。

●「理科の勉強は大切だと思いますか」の質問についての肯定的回答の割合は,国や県と比べて低かった。理科の授業の内容はよく分かるが,自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てたり,どのようなことが分かったのかを考えたりすることは苦手なようである。PC・タブレットなどのICT機器を利用して,分からないことをじっくり時間を掛けて調べさせたり,理科の学習の楽しさを伝えたりしていく。

宇都宮市立西原小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着，児童の実態に応じたきめ細かな指導	・今年度より 教科担任制を取り入れ，専門性を生かした指導を続けている。またAIドリルの活用や，朝の学習，家庭学習の実施方法等についての共通理解も図り，指導を積み重ねてきた。	・国語の「書くこと」，理科の「生命を柱とする領域」は，市や全国の平均正答率よりも高かった。しかし，特に算数においては，市や全国の平均正答率を下回った。学年が進むにつれ，学習内容も難しくなり，前学年までの学習内容が定着していない可能性もあるので，AIドリルなどを活用し，全学年までの復習を行っていくとともに，日々の授業やモジュールなど朝の学習，家庭学習の指導の在り方を見直し，学校全体できめ細やかな指導を行っていく。
・児童が主体的に取り組めるような学習の展開や場の設定，思考力や表現力を育てる指導の工夫・改善	・主に体育の学習を通して，振り返り活動の充実，児童が主体的に取り組めるような授業の在り方・思考が見えるようなノート指導の工夫などを行ってきた。それを他教科にも応用していくようにしている。また学び合いの場の設定については，個人端末の活用や，新型コロナウイルスの感染状況に合わせた予防対策を取るなどして，工夫して行った。	・質問紙から，「５年生までに受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使用しましたか」の回答で「ほぼ毎日」「週に3回以上」と回答した児童が９０％以上おり，市や県の状況と比べてICT機器が十分に活用されていることが分かる。今後も発達段階に応じた活用や，学び合いの場の設定を行い，学びを深められるようにしていきたい。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が低い。 ・算数「図形」の平均正答率が低い。 ・理科「地球」を柱とする領域の平均正答率が低い。	・書写の学習における指導の工夫 ・半具体物や図の効果的な活用 ・実験の見通しや結果の考察などについての十分な話合い	・授業の振り返りや自分の考えを自分の言葉で書くような場面を意図的に設ける。 ・文章の意味を捉えにくい問題など，絵や図，具体物などを積極的に活用し，視覚的に理解できるようにする。 ・実験や観察を通して，予想や考察など自分の考えをもてるよう，グループで十分に話し合えるような時間を設ける。